

一般社団法人 街路樹診断協会

Urban Tree Diagnosis General Incorporated Association, Japan

<http://www.gaishin.com>

山下得男（事業委員会委員長）info@gaihin.com

1. 歩み

“街路樹をはじめとする都市樹木の診断により健全な都市の緑を育むことに寄与する”この理念のもと、一般社団法人街路樹診断協会は活動しています。2009年（平成21年）年の設立からちょうど10年。それ以前は1996年（平成8年）から13年間、任意団体（1996年～レジストグラフ研究会、1998年～街路樹診断協会）としての実績があります。

1980代の終わり頃から都市樹木（街路樹、公園樹木など）の根元が腐朽して強風や台風で倒木するようになり、その原因と対策への関心が高まりました。都市景観の骨格となり人々の生活に不可欠な都市樹木は安全でなければならない、と、街路樹管理者や研究者と協力して倒木の危険性をより正確に診断する技術を確立するために、前身団体である街路樹診断協会の設立にいたりました。

2. 樹木の外観診断と腐朽診断の普及

当初、ドイツの樹木診断技法に学びVTA(Visual Tree Assessment)を導入し、それが今では樹木の外観診断として街路樹診断や公園樹木の診断に一般的に採用されています。また、樹木診断機器のレジストグラフによる測定から樹木内部の腐朽をどのように定量化し判定するかにもいち早く取り組み、他の様々な樹木診断機器を用いた樹木内部の腐朽分析も行っています。

樹木の外観診断・診断機器測定の実践とフィードバックにより樹木診断技術を向上させて信頼性を高めること、それを診断に携わる技術者が共有できるよう努めています。



写真：研修会の実施

2019年5月、国際シンポジウムを開催します

「世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント」～世界の潮流に学ぶ都市樹木のあるべき姿とリスクマネジメント～

世界各地の都市では、気候変動やヒートアイランド現象による都市の環境変化や災害発生に対応するため、リスクの回避や被害の軽減手段として都市樹木を活用しています。アメリカやオーストラリアの取り組みを紹介し、日本の街路樹や公園樹木のあり方を見直す機会にしたいと考えます。

■開催 2019年5月

20日(月)東京、22日(水)福岡、24日(金)大阪

3. 活動

当協会の活動の主軸は、危険な樹木を予め察知し対策を示唆し、道路交通や公園利用者の安全に寄与するとともに、健全な木を大きく育むことです。そのために、診断技術の開発、国際シンポジウムの開催・海外技術導入に力を入れ、街路樹診断士認定制度を実施しています。

診断技術の開発

樹木の外観診断や樹木診断機器を用いた腐朽診断をはじめとして、移植適性度診断や根株診断などの新たな診断手法の開発にも寄与

国際シンポジウムの開催・海外技術導入

講演会、国際シンポジウムなどで常に世界の最新診断技術を導入。海外での交流事業も展開

街路樹診断士認定制度

都市樹木に発生する危険を事前に予知・予測し、危険の除去を的確に行う技術と経験を有し、誠意・信頼のある専門技術者を認定する制度

概要と連絡先

所 在 地	〒108-0074 東京都港区高輪3-4-1
創立年	2009年（平成21年）11月
会員数	113（うち法人正会員75）
支 部	関西、九州
連絡先	電話 03-6447-7288